澹

靜

奫

文

鈔

平 疲勞 工成力於學善政之大者如 威 次 **六十毒辰時先** 東望而啼思公之德 壽敍 閩 帷 丟平 **企工公主**

爾曹不忘公之德亦知公之許乎公以名家子出判臨 今間小 清州會王 出奇破賊斬馘無算蔽遮江淮燕豫之交賊噤不能出 有知已之咸者敢請 老弱入城以身家百口爭之所全活者數千百 州事城內兵不滿百帥勵士民固守士 偷作逆變起倉卒堂邑陽榖相次失守公時 壽將奔走登堂尉 / 詹靜嘉文 銀本之五 認自昔而已 言以侑景瀚乃進 而告之

喪葬如 私于公毋亦好德之良有不容已者邪雖然茲地相 屬族無飢寒者泰氏自明至今四百年營緩相繼至公 **旭友于兄弟睦于宗族仁心所積漸而推之民物所** 们始有義田然已身無尺寸之產也葢公孝于親敬 養鮮坐是淹滯者數年公不悔也及守曹州以憂歸 足數載經營增為干晦滴范文正公之制而損益之 道生者故所至皆有惠政非私于 禮修宗祠置義田以成其先封公之志猶以為 日不去諸口亦豈

歸宅爾宅田爾田孝親敬長以無覓公之教是公之 德 老幼跋涉非公意也余將以爾民之情奎于公其 而连民之情景瀚其邑令也乃爲之敍彙而 , 作詩弱文金公之五

夫生有道之世處卑而無階以 此非有所樂於中而無蒙於外者不能然又非若 力能致高位而才又與之個顧乃遺棄榮藝蕭然是 不足以有爲則宜其老於山林而不悔也若名置子孫 流均為名高也德修於家教成於子 何簡齋封君 言山林之士 則其所以 を言葉甲ですべきかられていると 雙壽敍 不能出加廣之 國恩而紹家業也 進有階奏而自度其才

名終今 世職讓其弟樣落公祥齊公遂入宿衞出歷將帥力功杜而隱處於家止菴公之勳在史辦先生以嫡長宜襲一辭大夫福建水師提督止菴何公之子儕齋先生獨不 接其以門功循資守職繼取高虧者又比比 , 疾歸以與其子曠熊擴熊以大理丞同知衢州行位一即位元年推恩大臣先生又宜以任子仕入都數月 次見先生然於禄齋公及寢館處竊間先其子寢煎號自上しまし

副總統霍公大奇之給以守備功牌將入告矣止若公 以子故抑之先生亦不願也卒棄之而歸其奮不顧自 阿功顯也方止難公討九股苗時先生實在 躍馬身先士率斬数無算後克番排番招總統哈公 止若公散詩說禮 有所試其可見者已如此余固知先生非山 以世受 所樂於中而無意於外看亦且先生 李西平宋之 體靜滿所文的なした立 國恩出義被於中 **百然精藝**集 生能紹其家學 而賢夫人 林之

雖不化而所以報 先生與夫人舉七十之觸余故明先生之志以見先生 不知凡幾矣其所自見豈必以仕為哉先生旣終不仕山水歌詠太平與父言藍與子言孝薰其德而善良者 欲先生之壽常如閨之有餘也 行役至三山士 生之誕在三月夫人七月壽以是月者寢熊歸期速 一般能之封就蹇於衢今處五月歸里而寢熊亦以 天夫喜其歸也請言於余將以閏月為 國恩而紹家業者固自有在也先

晋三高 成進士歸里授倭而晋三就館於連江漳平詔安一石君先生莫不敬而禮之與余定交數年甚相得 通 字試受 經學古所為詩交 一人というだけ になっているいというと 年韶安宦人所造就多知名十 因諸生中席帽儒衣浩然不介意也 三先生當事紀晓嵐朱竹均徐 知於朱 十壽敍 **入皆有** 獨度 都講聲名籍 寐謂自是冠南 仙長 公林青圃: 兩松諸 謁

間隔别不常見繼俱從事州縣抗塵產俗今乃於我 數語而别蓋余與晉三始以文字定交過從無虛日中 淵然古音其味醇泊學又進矣次年余從宜總督劉賊 即陽回駐西安晋三病始愈其冬大兵平與安之安嶺 數 閣致身通顯可以行其所學 一叉署漢陰廳事宿其衙齋 日出其所箸越麓草堂制義桐枝集古近體詩見示 刀俱瘁鬢髮盡白矣余從軍入蜀今年復囘興安晋 等賊晋三署事石泉軍書旁午冠盎絡繹於道 一病即西安邸舍相見執手悲喜交集盤 が一門をフタックース 矣余剌邠 夕是秋晋二人都恩恩 州而晋三適

不為晋三惜之雖然士亦顧所自立何如百今秦蜀 老矣十一 一鼓吹休明以鳴 一恩與有責馬能盡其心以 不安其牛 響等野孫文砂なる元 官簿書鞅掌未能竟其用 一月下浣八日為晋三六旬初度以書 丁酸以壽言詩余惟晋三之才了 一時吾輩 國家之盛顧乃 官 一邑皆受 六職是即 六 強、晋

與晋 一皆非宜久於宦途者先後引退徜徉烏 士用命區區 自相保聚賊過 往者文酒過從之樂晋三年益劭學 其所學之 富惜乎靑圃梅崖踏先生 有吾兩人 兩先生 一小醜可以計日殄除軍務告竣 1:145 5 驗乎晋三勉之矣 無所得食 **八境卽去民** 過夷 古 國家威德 益鉅 **資海** 被

计时间分式 经营运 医自动性

				-,	秡	不朽特
一一人作			ξ ,			赤知吾兩
人作品が新などなった						V
ではなり						能享此樂否目
						否目敬
-						以斯
				•		言祝是您

婣 季義根 實請 八皆豪于 爲 具凡所 **第子員**父某 / 綜其略| 壽敍 好德 歸 以體 過從 而敍 JĽ, 甫 则 親 可灋 效 翁 蘇寢 母 壺觴侍 剩 而式鄉 悟 間 算

翁年 清 養受恩波者至感泣恨 婦抱幼子騎驢墜水中雨岸觀 /拂其意族 咸閻黨有求 此然平 附 餘矣其孺慕猶 棺 浮沈十數步卒捉其母子以出其勇干 請 居守身 必誠信三年常 偉或勒之 療改學為文五 一讀書 必以禮 無以報嘗出郊 也 有 必應酌其親 **著皆失** 「常使老 雞 不羈 **追**恂 拾青紫無益 好交遊 河水暴漲 召無措翁 . 丁丁丁 恂不 ١ 所 蠧 敢

翁方所 也是為敍 の及者海を

皆然者矣讀退 世名臣多自排史起家朱巨為桐鄉嗇夫其功順乃 能等吏胥然則瑰瑋共豪之 少多矣然而唐宋以來買 司農時越當時機網閱政身卑不甚隔絕 智神阿又沙娃とし 壽敍 虚田廟理之 行其志至後世而有不能 記部諸署派尾其權 其責與 一公约 个得

親以安之 所致 交典史陶君衛文其 與三公之養何異於道又未當不合也余來平沒始 非其所有 以名 也此即詩 心的館島屬廣隅其禮 然其職易假則無道 一壽三余不識翁然觀衞文而知翁之 が諸国をはるを受して 介不取可謂能守其身者矣翁以道 蕭然或鋤炊煙而衛文漠然也閉門 **小宣** 海白之義雖基水自義其親頗 與衛文書必勖以 人習者也 不自菲薄潔已愛民平涼之 日請於余為其父 所致者皆其德 公居官守 流推孝子 一寶也 丁遐 处

刨不 宣必三公之貴哉翁其韙 爲敍 何以能安其貧哉衞交勉之矣 を言事をおとかとところ 時 恒而享王公衞文姑以微 孫繞前更進 其身以事其親卷之 一間其途由是躋膴仕居勢要得志 也其為顯揚 上壽是 及其學詩人之選及本也制谿沼沚。 台藝詩 國家用人

不啻也吾歸於汝 如所 去城違 禮而能 母集 歸謹 真吾 舅時往來汝家意 攻鈔衆 事 極人 1 勿忘吾言 壽敍 四舅之 肵 急不 也今孺 為世 基 官 為 古 疎 和

家盆 身享其報 郷 何其質既進謁其貌溫然其情藹然子 自豫往來清廉里 · 然後知 豐優游 其光遠古 熾其家汝識之 天道 冧 公旣爲之壽言今七 陶纸樂 可信 中見諮舅及中表 竊惟其家 而吾母之言爲有徵 也其子某復謀所 型源用於 天或者將 知吾言不 拾塗澤 乏盛芝 兄弟 皆賢家 故

THE REAL PROPERTY.

不報而遲速有時今之 Sim 時ですことがないこと 造康第而語考

俗為壽者必以文 旣 叔母薩孺 | 後日中年計算 | 沙やケー丘 入後 百

依徊 りり主円 ランムラ 卞惟 孺 $\overline{\mathsf{x}}$ 能自 右能服其

鳗 事 地 |唯諾必謹然意所で 今吾 行以求名然 與人 也婉變如 太宜 绞 以誠顧不善忱 太宜 秩卑 可亦不 其真焉1 ... 地 以求 厚德 行其志

足為其親榮者而聖歐之語有餘羨焉 民以李卷父 公壽則今7 一腆為慶喬此皆家庭日用之 滁與位此庸 母其事乃在於竭股肱藍黍稷牽 兄弟既翁和樂且耽武王許妹 **双**鈔 見省 人鄙夫之 固宜夫 先生與孺 知 先生 是能自 孺

奉直公旣殁而 聯聯文鈔巻之五 不益大乎况乎禄與位又未必不,相安無有怨怒與 孺人扶杖道 先生歸老於家一 先生因書以為敘

遼未與也又 、至言の尹校行と 人未嘗不備 。區區遊隊未足縻天 自 総其詞 少袋メニエ 恤其私夫 詩 工战羰其不言 不遑 河外報之而 將母

臣者 然竊 依間 朝不出鄉里朝夕皆與其父 事而使耳而列國皆在中原 者或萬里以外山川 STATE OF THE STATE OF THE STATE OF 症相徇以文那葢古之人皆仕於其國雖列職而故知之而故使之而其臣亦受之而 不辭豈。 傳無交焉當二代盛時賢才眾多何所必需於 若此至於後世天下 疑古者養老教奉之禮至許 全望陟屺之瞻猶未切也 近青 君 了 金 名 1 人 ユ 間阻升與跋涉動經歲時主 一而其臣亦受之 一家仕之 母相依其違是昏者獨 而上之人所以極 芝 盡而 近者數子 内在返不過旬 者歸 不辭豈 其情

體者則又以其子能勤於國為慰故必久勞王事有以 壯時瓶港率其二 **文**已突紙鞋旣歸而太夫 目盡然後得遂其私焉此將母之歌不作於皇藝遣 君吾相念其久 加樂之夫 所爲宜於今而不悖於古者也瓶若官京師十年無 於朝吾 (為人子者 | 詹靜斯文学を之五 尼其親而盡力於 、勤也允之 一子修門內之養雍雍如也太 一無不欲長奉其親而其親之 歸葢不獨四 人益壽而康耳目聰 河城 雇

五子許之余故不答錄詩 五子許之余故不答錄詩 五子許之余故不答錄詩 五子許之余故不答錄詩	と寺の念冷四土珍霊とヨ地祗皆夫氏鬼																																											ことには、人名の人と、川上した。アニュー・ナー・オー・オー・ロー・ドー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「アーコン・アクセノ、コーリップロピン・コーリーレーリアは、品に対し	ショ・リノスン。とこうことを主シーコレニリーは、社会の	というというできる。	していた。アカーには、ロション・コープ・アクトラー・ロン・ロン・ロン・ロン・ロン・ロン・ロン・ロン・ロン・ロン・ロン・ロン・ロン・	一くすっていたりアドリカス・マーくこう一般性が	一、FITTING TO THE TOTAL	アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・ア	・ フーリー・コーフーリング ようきブーフ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		,《《李···································				ニトートのことを対象をデーター・コートンというできません。	と、人人が出ている。とは、これが、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには	が、いることは「日本の一日である」というできる。	フノスト・ジャストコンディングリー・プログランドノコイン	ニー・ノを行うがとうこれ ニー・ニロー くんていりょう ノーベル	・・・・ ノビタノイ ニザニノニー コドー ペラフ・ザー ノベラ ノガコドド・ファイ							デノス・アンドー・アー・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	これには「ここには「ノブリー」とはいこと	り、日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日	プルトリー・アン・ハード・ロー・ドー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		いた。これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、	かっこう ジャン・レート・ディング								の トゥールを通うことを見る マロー・デー・デート からべいこうとうとう	のクロスでは、アイリア・アイトのでは、日田の・一つ																• • • • • • • • • • • • • • • • • • •		52 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -																																										
--	-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------------------------------------	------------------------------------	-----------------------------	------------	---	-------------------------	--	--	--	--	---	--	--	--	-------------------------------	--	--------------------------	------------------------------	----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	---	----------------------	--	--	--	---	-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--------------------------------------	---------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

5-

歸先生時家苦貧椒人 **余遊恂恂皆守禮度群其家事乃知先生** 林毋陳淑 於辭召余讀于庭所作先生 W/ Assession 介何其家其後先生 [八脫簪珥操井臼躬親勞苦無幾 **則淑人** 時子未 壽紋 〈食貧作勞之況可見也 孫僖倜儒等又從 行述言先生

征來迎養竭志備 教所及而亦豈易言哉先生歿而于庭節齋出宰吳禄 位通顯矣淑 人廚中見者 岩淑人漠然無所動於中而各盡其道雖先生德 完生登甲第人翰林歷官通政督學江 有漸久而不能自拔也故不驕不怨士君子猶 人又自若也今年八十有二矣起居相繼去世諸孫交弱家世多難人情 公人布衣蔬食 不知爲夫人 物所以承歡者甚至而淑人自若 不改其常歸自京師率諸婦 、富貴貧賤之中而溺者

召聞豈乏世祿之家哉今林氏之緒至先生復振則 小與

靈寶之許餘

姚之孫齊名

以其

世有

清德

也

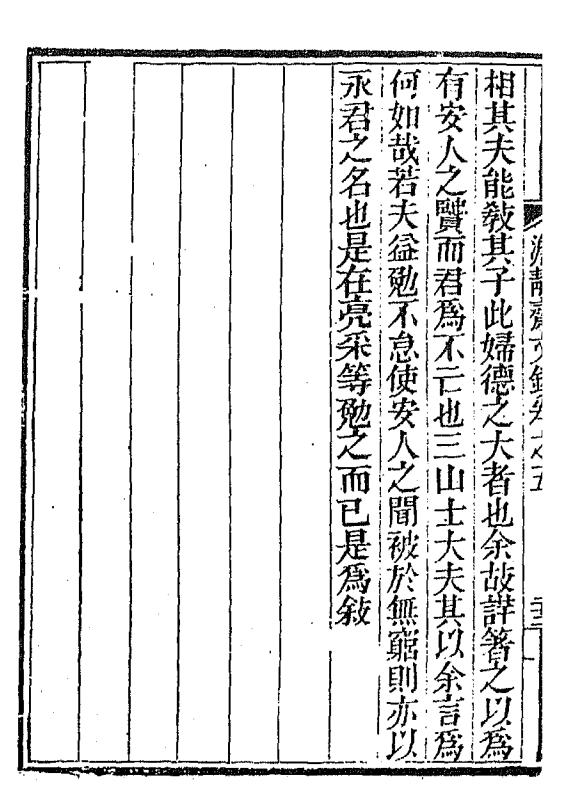
官時 以 後者 淑 明中集文安公始起其家康懿文恪繼之 先生之澤引而勿替則淑人之 、福祿壽考極生 八重則倓等今日所以壽淑 **焙糖齋水 シペ之五** 期若皆已得焉則習 訓束修砥礪以大前 惟名德相承足以不 志也其爲壽也 所解顯揚之說 者當何如哉 德望重 無可異矣 瓠 前

				0153451mm43		
					淮	反抗
			į			落冰
			·		循	至人
	1				-I	首分
			j i			4
						动作
						松中
						旦 4
		9				是月
					·	里 监
						からには
						是豐
						火 七
				[] [ì	灰双
Y LINE WHEN THE				.		示 八
						りまし
] -	反覆其見之熟矣是固不足道倓等以余言语朽渺人八十年中升沈顯晦之故人事之愈為
						直響
SECTION SECTION SECTIONS		1	}	r		遮透
12.25						度世
4.465						廖]檀。
COMP		<u> </u>				<u>然</u> 之:
眦.		والبراد المالية المراجعين		nemising spirit in	Color of 17 have been sent	

命來調皆有交行恂恂守家瀕余以是 **夕爲恨數年君之子奮南亮朵公車相繼至以 鲅年而亮泵以邊為國子學正** 八詹静霸文钞卷之五 見都中竊嘆人言不妄而君遽歸 余遊許其家事然後 已殁矣爲槪惜者 乏行事君ブ

體終和 雖然視其夫與子則其質可 **鳯齊皆有聲士林而亮功途以去** 於家也安人旣 氏慶 無政失其在家訓諸子也嚴於君在時故戀陰亭 十矣五 季敬雖 郵書請言於余 不知君之 月設脫之辰三山 というヨドラノニー 不就養書至必述君之訓爲勖亮采奉 古豐媛 金剛澤安人 青結其歡心 / 曹婦不惟治其門内で 無以加余又以是 4 余以爲婦德之常不可 知矣雞鳴之詩曰 歳 入知君 人成之 副營書巡 心也安人 者皆欲登堂 可勝書 公年 合為 一教行 也 •

者不衰則安人 其為言也假於理而善人 (配故至此詩) 母則孩提少長一 以爲身不行道之咎然亦不幸而不得賢明者爲 **1**焉父母之謂也父之於子尊尊則百7 此雖君發之有素而亦豈非安人之 教是賴故必嚴也而後可有成今亮采等所 **郭於未然三代以後** 一を自己がととしているといないとしても (平日之陰相之者不可見乎易 人所以概慕於古也若君旣歿而侮頌 言 行皆躬悉之可以導迎 小學不講所以涵養德 而敗其名者矣 1133E 上家



學其思獨苦有得於心若與神遇銖積寸累充滿折 一儒王振金聲集其大成茹經函史包劉越嬴始斷 黎既及歐陽繼起扶微興壞兩人 曾王張詡幽渺其道大光有明以來正學獨隨震 行用嗚呼斯交之寄葢不偶然亦 一設位於西湖開化寺之宛在堂製服致奠而告 國家盛治交教誕販黨釀涵浸篤 而已熟初整艺 如名世興五百年

Haring and Constitution of	hadina da antiga da a	APPENDED TO SECURITION OF	and the second section of
			夏 开 百世皇
*/			· 百世豈無 廬陵 較不
Ellip Com State			严质发
こが違う			共
			制以容
			誕其相
			其相之勿

側吾 嗚呼嫂艺 先生延爲其子師交相得也嫂方幼隨 父曰君名士何患不得佳壻奈何與龌龊者爲婣 極歸遭家難流離 泛及在時求婚者 父륯之 從嫂周孺 が経済を受けている。 日君言是也未 **〈謙亭先生吾** 心視猶女會有求婚者先生 困頓不能自存時吾 年而先生殁其子叔春跟 相錯為至三而 可問吾 Ē.

者經其目無不能小姑小郎下至婢妾苟有事皆以求 性勤儉精女紅織紅剌繡皆臻其極又工 必立應亦不自以爲能也與人 時出遊始在豫在畿輔侍吾 全者皆以爲灋仲兄以持家廢學嫂凡生三女而兄乃 祖母長而兄被難乘四方伶仃轉徙備嘗茶苦及歸 家而家故貧未當有膏梁之 小無不偁其聲而吾 年矣故嫂卒無子嫂生三處失母六處失父育於 **拟**父葢嫂歸十有六年而兄之在外也前後 ジルまた元月一つを安しく日 叔父 入有禮而和故吾家內外 父其繼在楚後又入演 叔毋亦絕處之其後 j

官萬里不可無人侍兄不泉歸然而幸不死去處吾歸 歸言嫂病甚危時吾將扶吾 而嫂復病吾心私憂之幸而又不死今春兄以允振七 **非於諸從婦獨厚前年吾與兄皆在滇伯兄以書速兄 猶若是也天之所以報之者何如郊嫂素善病曩吾** 寒 夜 過 牛 **省燕歸時親爲治丸藥服之日此吾死友之女也固** 公此隕命也嗚呼其才其德吾見亦罕矣何其命之不 、塡乃得歸歸而嫂病病三 燈炭炭刀尺之聲鏗然始不覺其勞久逐 一來家益落寸絲尺布皆自十指中易之 父之枢返里而 $\stackrel{\sim}{=}$ 叔父

心不早為之所坐視其死而不能救也是又吾之皋也 乃不幸兄學未成而廢嫂歸吾家未當學一 易醫凡四五後來者歸咎於前藥然反之少有效而卒 小起也嗚呼天爲之邪醫爲之邪其治之不早而致然 父九原之中毋乃有遺憾邪吾不能推吾 父義不質死友欲使其女不失所被以嫂歸於兄 一年始歸且得官可以有爲矣而嫂途不及見也 **6 記記記而卒無救於嫂之死其謂之何哉病** が、ま円った一つ企り名、一人コ 日之安兄

事家貧不能多畜婢僕又性疎懶不欲親瑣務凡內 婦之際郭光孺人之爲婦那自 張孺人之靈前而告以文曰嗚呼哀哉死生大矣况夫 無黽勉箱篋中物名 維乾隆五十四年歲次已酉二 想也生四子三女皆自乳之衣廢必手成一 小姑自祭祀賓客井臼中饋皆點親之薪米艱難有 袁夫某率男某某等謹以清酌庶羞致奠於亡室 切皆委之孺人孺人以一身上事 / きょうず シーニ こうここ 錢者無不入質庫也其憂勞可 一月戊子朔越十有三 先大夫殁余始肩家 怒姑下撫小 燈炭炭夜

也 皆以爲屬其憂勞又可想也余遠官薄俸不能多寄家 牛僧聞刀尺聲性有巧思醫組刺繍速成而工後來者 叉可見也余宦三年而孺人始來余已調任平涼衝途 漘 一种直翻阅受侮枕蓆之上淚痕常濕也又以其間嫁金新逋舊貧索者紛起孺人以弱女子支撐其間彌 為歡然與其子女私語或至夜分未當不相對泣下 地所費不貲孺人心憂之顧恐滋氽之威也強作笑 與長女爲式兒畢婚經營細密心力竭矣其憂勞 美食不服一新衣冬月不御爐火日吾不忍 理測所強文创作之五

垣數日延醫調治而病已大愈飲食起居談笑如平時 金石有不立版者乎孺 初七之夜余二鼓始歸枕上絮語猶問次日送迎事少 衣仓恣所欲及來吾家乃刻忍堅苦二十七年未當學 想也嗚呼孺人 失足傾仆呼之不應急喚子女婢僕至神色大變嘔 日之安也所謂百憂感其心萬事勞其形嗚呼人 兩臂氣已絕矣嗚呼哀哉醫者皆謂憂勞所積元氣 加膈不快披衣起如别室行步猶如常也返抵牀 个語評事文钞祭之五 、幼在外家外舅外姑以晚得子嬌崚之 所省幾何吾以 人初特患風寒百然余歸自省 盡否心目其憂勞又可

臾 呼哀哉孺 ^八之别 视 之作。災禿齒落壅將老矣觸目所見 以死為苦酸屍 **卵天那誰為之那嗚呼孺人未當旱有生之樂宜** 扑熨惜物力寸絲尺 **時性頗卞急此十餘年益和而緩雖在婢媼不少** 託盡敁猝脫而不及救雖然何其速也終身之 世富貴泊如也於湧皆不宜殀然竟死矣嗚呼 藥未下 人之貌秀目豐下其家高曾父母皆享高年 アンリヨトコノニュー 世 語未

語余獨何心其能

造此

那嗚 一飄然竟去固也獨余以四 、布皆謹藏之淡於名利清約自 掉然神傷 加

一哉尚瘳 **蒸昔之所i酮祀而求者也然孺人 得苻安無事善歸鄉里衣食廳足優游林下此固孺** 泉流淪胥胡底嗚呼死而無知則亦已矣死而有知孺 也 人而今日 不特此也以疎拙之才而處末流旣不能竊脂膏以 一勞庶幾死矣孺人之憂不將益切邪或邀天之庇 又不能擇善地以自容勢孤矮絕累將益沒 誰撫育之憂鬱無所告語疾病無所倚 一矣夫復何言今當宜祭之 辰薄奠 一矣嗚呼

方孺人卒孺人 其在遠念孺人則流涕廢寢食孺人之思 然外家嘆其慈孝以為雖所生無以過也歸 齋文釗卷之六 母黃宜人太學生諱建公女也生三日而外祖母 家母黄宜 展掘其遺集軌欲獻累日太學公奇處之為擇 先君爲年十五而太學公歿執禮如成人繼外 19/ 湾靜斯文鈔傘之六…… 人無所出事之盡其誠旣歸歲時饋問不絕 八爲日斯先生女弟通詩書工吟咏 **八**壽 辰 徵 文 節 畧 闘中海 宜人也亦 宜

始終如 官不在側也 以禮而於奉祭祀待賓客尤 年 念其勞強麾之去則孱於隱 藥扶持牀席間衣不解帶日夜不 隨事曲體揣度不失民 風越疾間數 凹监冀揚必 起課並姆場內外室字拂 祖妣 太宜 人守節數士 E 作作即 誠 寸能得其歡心 且敬 餘始 一交睫 宜 有聲響又 廖 不苟言 (祭祀為大 能守其鴻 宜 太宜 旭

君性忧愧好施與而尤篤於宗族有所求無不應應常 有內壓憂 一恐災等或有所遺忌以開皋於先人及實各包 不宜過勞 到望外受室數年而家中落 7餘未嘗無念我者然我終未嘗 一奉高堂下撫幼弱竭蹶出兩手今常舉以告 當時家中有值一錢之物無不以易 二层瀚等皆球以為幸有子婦歌 先君以是得事志於學入太學三年家無 宜人曰吾習於此不躬親之於心不安 宜人驱勉有無不使

體音生平急 形衣履必親治之易舊為新截長補短長衛自幼至受 一幾述其時拮据窘迫狀至泣下曰此不足言欲使炎 回此值幾何吾非吝也顧物力可惜欲為淡等情福 君在海時謂景滿曰汝母可謂勤儉然而知 日之奉菲衣惡仓所服御皆三四十年不易子 八消靜河又針然了一 近今汝幸列籍种雖貧 新用為衣也補級缝約一 先君歴任二 一十餘年 一級寸布皆藏幸

程 但汝當教之使有成目 泼者語及或感激泣下恨無以殺待二庶母 不啻若昔時也敌內外族處莫不交口何其聽至 知也汝庶弟妹幼 加峻景李景淙雖景范景瀚不及也日吾非矯情 宜 人處之怡然其有求者亦無不應又念景腦 **计累所得者** 方苦無資제 而私出簪珥衣服以與之其 少他 傾箱篋以授我吾事始集 以赡其品 日汝母必能安撫之丟無所 母 先君殁而家益貧色無行 此美事 汝权

1 쳵 門封宜 **獲無不有恩意蓋勤儉** 封稿 其仁慈之 薩牆 成立無所 召景李景宗皆庶母由 及在鎮南州時 公年と 門籍群府文部然上八 小能詳也子 性孝敬之 同德 知高陽縣時 用吾渠等 TEL 心至 K 四長景范 -)則景瀚| The second second second 無間言 體 先君プ **万官湖南次** 、孫男五 作惟 宜 山崩 速蜒 宜 先

	enti- litter est pallacidad		An electromagnesis (1977) And the
the state of the s		言以光屏悼威且不朽	之辯七月三日 宜人設帆之辰敬求大人先生陽身以大震厥後而景淵等德薄能鮮無能為顯榮蘇
			頭髮

置成 出 而逕陰陽與至鉅也焴鄉建庿入 乙禮次於山川社稷所以奠安黎庶揭愛神靈和風雨 藪 天子協和幽明之至意叉懼功大費鉅慮始之 佞承乏茲土三年於茲大懼神之怨恫無以侢 大修舉廢墜昭明典章有司之職也而鄉 八蜡之祀 ?舊不加封號令郡縣各立瑄廚崇祀 日水庸則古固有其制特名不同 國朝凡三修迄今

• • وينسس	ينس وي والمسايد والمساود والم	ومندرم والمراف فالمراف أأنا فالمرافع	Annual American Company of the Compa
			大庶民商賈生長歌哭於斯數十年來時和歲豐民物 安樂其可忌神之賜各出已貲共裹盛舉以奉 以同志者各書其名於左 以同志者各書其名於左 五

列皇之化科名繼起人才彬彬然盛矣而孔庿久不修 國家在所設學校於其中立孔子盾叉别置 行路傷之近者列憲允前令之請鳩材計工業有成緒 有庿諸生無講德修業之所從飾庿貌以隆祀典非而明倫堂東西學舍周垣重門顧猶閥爲夫有學而 宗儒重迫廣教興文典至鉅也中衞介處邊陲爲用武 通百餘年來沐浴

之好義誰不如我量力為施養微成鉅以係 **基盛舉也不佞將樂觀厥成** 聖天子化民善俗之心以推廣列憲教養斯民之 聖世之化旣久諸君子倡之必有聞風而與起者 文有司之責也其何酸辭昔蘧伯玉晓獨爲君子邑之 人被 不竟之役而匄不佞 《游靜曆交鈔卷之大 一言為之倡夫修廢與墜勸

以防其過也箸其意於令者義之權也所以勵 然則未亡可也不得謂亡者之 無所為而為之者義也懼人之利之也旌之是誘人 成姑謂其未成爲子婦也然則謂之 死禮未成婦死歸葬於其女之黨夫旣成婚矣曷喬未 然有不可死者有吳姑則必不可死有子 對客問 也何言之 然而令固有之矣沒其文於律者禮之經也 日夫死饵未三 不可也律何以無旌 公謂宜三而猶未己 必不可

嗣是再死其夫也曰有美旣立嗣烈婦有子矣何爲死 義也另姑在婦之貴未畢也而死是體其私也是陷 忍出者也雖然如徒死何日劉袁之死無叛於宋危范 **日是又不可以一說樂也夫撫孤者其孤待我而生者** 後成立是謂其夫之弟不有其兄之子也非烈婦之所 夫於不牵也有子之不可死者重絕夫之嗣也絕夫之 夫有美質才而坎坷以死名不出里開亦烈婦之 品有美者非他人烈婦之夫之弟之子也必烈婦而 |死無救於明臣於君婦於夫其義 ノがまりるスプインクーベン

隱忍而不死者之泉皆有益也 哉日然則烈婦有為為之乎日烈婦知死而已不計之 有美之名與烈婦供不朽矣是烈婦生之 他 丁表於坊享於俎豆入於郡邑之乘日陳某之妻也 心也是問其他裁論烈婦者不得不及此也若惡主 以烈婦之死為無益而訾之也吾又鳥知夫世之 、美国作品的と沙皮シア 也何謂從死 *J*i THE RESERVE OF THE PARTY OF THE

家皆世仕宦然其所處 所為行客而 其辞也 国苦摧折之使之求生不能欲死不得至於勢無 一然後成之以死天非獨薄於是數者也名義之 任重而道遠非汨没於富貴者脆恨柔力之 烈婦行暑後 富貴福澤天之所以 **儋靜齋交鈔零之六** 分多而與陳氏有 所可欲而習之 (之成烈婦者至矣烈婦內 公有貧賤之不若者 《豢庸愚而忠孝節烈 儿 即育萬 所 外

苦相弔長歸族官林君守仁亦貧工 〈偷籠枝〉 死語其母曰哀我者愈以素如之其所處大暑與烈 同然烈婦 **逐絕老母轉發** 烈婦方力求所以傳之 古今莫不然以余所見 、太學未幾死矣喪歸氏服其夫死所服 兄弟為時間 夫也 八而黄烈婦父客 、烈婦夫弟有典等友其兄 不仕棄家出遊 又有烈婦黃氏黄氏 而不搖其氣百 氏與母 死無子黃 而

時 激 於 勢 者 プ 事不偶然也嗚呼豈非天 余叉間烈婦常何說其事不置烈婦婦見之 美死內外亦無不知烈婦之死者嗚呼是豈 日也黃烈婦遺 **著語がとりとうこ** 所能哉天命之矣烈婦之死後黃烈婦 息節義事把念反覆不能已生平不苟 、森森有寒色 众 哉 女名

西論者謂有古俠士風是永知先生者也先生固孝 有所必及 何與於人 而仁民仁民而變物夫吾有親而吾敬之變之 一親者不敢惡於人 與物者其枝葉也其生機非有二也其氣之 生機日新而不已則氣通而無間矣親者 職/Samath ミデァールンラン (而天下必於孝子是賴者其源旣盈則其 泛痿痺日不仁其氣隔而不通也孝者 也孝義先生散氣誼喜周人急解推無後 同實而異名果核之中苞者謂之 八敬親者不敢慢於人孟子

得位而澤不遠也故所見止此若充先生之孝之量固 先生爲徇於名激於意氣者如古任候之爲也故爲論 仁天下而有餘矣鄉邑云乎哉先生歿鄉人私諡日季 日季子不匱永錫爾類錫類者仁之謂也惜乎先生未 已於親者必有所不容已於人故曰季弟爲仁之本义 氣已不相<u></u>
感通而生機息而孝之量不全故有所不容 所爲吾心必怒然而不安此怒然不安之頃吾與彼之 也 一方声ラス多グスプ 一民一物之不得其所吾力可爲而不爲之 知先生者不盡不得其本末所在又懼以

方成進士 如先生者非古所偁獨行君 卿卿慚 動天下其子紀孫羣位通顯矣然當時之 (科名為顯揚此世俗之見百陳仲弓為太邱 一士有。盛名其報未艾是亦足以相補矣雖然生 《見孝義先生與先 鍾與蔚圃所以 林孝義先生傳後 一區區各位勢分之間固不足為重輕也 生之志施於身以澤於天下以有間於後 生傳而信三代以 /尊崇其親之意豈僅 字那灣德雖不耀而蔚 降名勝 公部口

高

空

卿

之

父

不

若

使

先

生

馬

名

人

之

父

使

先

生

為

名

人 紫陽為之子而各益彰夫三君子者固未易言而推全 是亦先生之志也 乙耳景瀚與蔚圃有輔仁之義故不敢以世俗之言進 之父又不若使先生為大覽之父是在蔚圃之所以成 于之志有不如是而不可者惡乎薄待其身也身者親 乙貽也齊待其身是薄待其親也蔚圃勉之矣使先生 **硷光所謂成親之名者也程大** 論者思蔚圃之體而推其 八清靜齊文鈔念之六 則先生さ

授毁之蜀犬見日則吹裸國之民入中土 《爲怪也傍偟不能自信奉亦淪胥以 ·思得者孟子以夷惠爲百世之 上所守 一代以後欲卓然有以自立不認於俗葢亦難 瓶鞋先 、透解語文的などに 米固不幸無良師友漸漬波靡之中弱 一一自好省矣眾以其不類 面卷記 然自按無由故富貴者外姪貧賤者 儒者不知慶其身是 先生有所憂 可爲太息者 1 一姍笑

高而呼否知其必行底也余叉間先生以卷親歸里葢 多者也夫季則能守其母矣許日冬子不匱永錫爾類 **疗歷憂處懼不自振拔終為小人之歸壽先生文駭汗** 然則變其以以變天下固先生之志以夫景勒失庭訓 過馬終不正矣先生之言毋亦有所憂而思以易之邪 漢管幼安王彥方唐陽克宗皆布衣百其行不合於中 我之盡旨者治病視其病之所甚急而峻其劑以攻之 道而隱處鄭谷聲光動天下況先生以碩儒資重望登 若適得其平則毒永盡去也矯物之枉者必過其正不 魔靡日八於衰壞欲得趨死不顧利害去就之人以爭 のでは、これでは、10mmで

質战為爾汝之爾其意切故其詞危先生日固古心也 何為然因其自毋搖爾精毋害爾生汝因其身念歐生 陝背將守之終身廣其義爲銘以自營亦欲使入先 炫於外其中無餘 毋才 第 労 毋 巧 甯 拙 汝 馳 於 末 其 汝器將傾鬼瞰其室物敗其名大智若愚良賈若虚汝 景瀚亦猶行古之道也銘曰 汝固其志勿贰以二儒其衣冠所學何事俗流汨汨汝 产業者皆場然思所以自立無看先生作記之意其體 不同。而定汝節將奪彼詭而隨乃苟而活不固而輕 公門小院以立界人而沒捷捷者臨败收者是多言 、全事をは下でなる。くこ

三汝睨其名汝味其實	

/ // // // // // // // // //		理外以調弧矢三軍之士加臂應指揮 王提督玉弓決銘
<u></u>		指握機

之說也善哉楊君之為養也夫崇養以傷行者季子之 累也故仲由之菽甘於東鄰之牲士患不自立百擊鐘 所致如蘭之聲然故雖菽水而親安之也某甫楊君非 隱者也而爲採菊之圖其自題之詩云云是詩人潔白 芬香之德季子不以非道事其親其所

養者皆其德之 幾何以穿窬乞丐之養養其親其親而賢其不吐之者幾 而鼎食苟取之不以道其與穿窬之盜東郭之乞相去 詩小序日南陔孝子相戒以養也白藝孝子之際白也 束廣微補亡之篇曰循彼南陔言采其蘭說者謂關有 楊某採菊圖跋 | を言語に同じ小りにといい

詩未嘗三而廣微之補爲可以已也善讀書者通之於 希矣陶淵明不以五斗折腰吾觀其人必孝子也所謂 不失其身者也使其親尙在東籬之下望南山而觀飛 **丽節之詩矣古之季子皆高士也願與楊君共勉之**以 態 い相戒之義云 一咏其樂何如潔白之養足以當之矣然則笙 ノルル南ラグラグをラーベー

侍馬展埃未終秋風颯颯楓葉蘏蕭如間悲鳴躑躅 屬而途動者 派飛調左右日 一些淚痕也詩云陟彼岵兮瞻望父兮狄梁 一体言語に関えました。 定省永絕其為抱恨寬有館期邪 霜林 则季子不忍死其親之意也 允也使工為是圖貌父之像而以已 圖跋 而親物傷懷情不自 至此所存不必有所藉 其市 こう

臨水 不必間雍門周之琴矣 而楊君思親之心不可得而已也僕亦千 者此楊君之心所以獨苦也更千百年此圖終有毁時 聽秋聲平嗚呼亦何益矣知其無益而猶為 如故衣冠髪眉呼之 古之傷心

者哉某甫林君善文詞丁 冶靡曼之說以極其纏綿悱惻不能自已之心義山 託爲相悅相怨之詞以寄其幽鬱無聊之椒而逞其豔 朋友故曰棈之所鍾正在我輩古之忠臣孝子志士仁 間風雅之道埽地盡矣登徒子好色者也烏脂所謂情 其意展轉相效於是所謂情者乃獨屬之牀第和席之 題之什冬郎香奩之篇猶此志也後世習其詞而不幸 八皆鍾情之至者也其意有所感而不可以徑逢是故 八香草皆有所託而爲其義通之君臣父子兄弟 小照跋 一篆隸令工寫已

抑心之所樂歟子未能知之 言志也富貴貧賤山林朝庿豪藝蕭瑟之情狀隨其志 小必在男女之間也林君之 ,綠陰之中彈琴賦詩致足樂也詎必以此微雲滓穢 春服始成與二三朋好登臨山水散髪盤石之上攜是者故觀其圖而知其心矣以林君之材卽不必得)所寄焉故其事或不必然而其心之所樂則誠有在 馬洗硯簪花之說余未知其所取蓋 樂秀輔曰名教內自有樂地然則吾黨之風流 **神难灭剑发之六** 也書此以質之

格墨如新先生墓木已拱而 球村先生與 先君子為 忘年 変某未及 見也中表 黄 廉英吉侍杖屢得先生書為多今冬過其家出所藏眞 一數幅相示某不解書選然展玩之餘可想前輩風韵 一廉英娓娓言往事不置當時夕酒過從葢無虛日今 然時丙申至月二十有八日書於方山草廬 | 皇子子 | にす アンハンス・ハンス 先君亦棄世數載矣賴

紧原不可必且數傳之後其後也自相攻擊與同紛然 未足淡信可知後儒寶鑿附會以求其說易理廣大 諸儒未見之 。
宋其合則姓矣是曹冥搜圖家頗具苦心的 傳久矣今所傳者乃出於宋之 可相通 T中之 一偶為奇偶之至合為太極夫太 書而數千年後忽出於道家者流其宣 而必謂大學人制作精意悉本是圖規 西南文学や之六 蒙訓題跋

謂之象書方位則有定矣何以陽磯則南北爲陽東西 牵強已不勝指其餘可見矣蒙訓 道三義立說原何該括但解易不難於說理而難於說 為陰陰儀則南北為陰東西為陽平開炭數語而支離 此亦順文數行未見有所闡明也制號磁行經束 一爻為儀畫外一 尚不汨没時麵而有志靠經亦今人所難出 卦各具二爻而固中陰陽脈有兩重於是以 一奇生四方之各一 一爻為數畫而中 奇中 一書以天道易道聖 一爻則求之方位 一偶生四方之谷

獨集中有山川辯以瀾滄江為黑水甚碻又金沙江議 學問皆有論籍惜其不傳見於所該者可得其槪李 **篠墓表叉偁有黑水集証** 近體較多律則骨格頗蒼絕亦饒有風致愼中詩家此 明史論詩摭長短本交人惡智況以入詩愈增麗道乃 必盡人人事事鋪張而排比之於詩於史兩無謂也宋 可局隨禺山特鍛鍊未至百宏山素精於律呂天文之 主皇極經世老莊諸子皆為諒歌尤為從費心力其詩 **詠史諸作論議問有可採顧偶爾有感借題打與可** 可 宏山文集題跋 順へを言語によびいていたととして **参郡大紀** 一卷今亦未見

北親也 海爲南國紀殊未知此水即長江之源禹貢岷山特自 經世之才又謂雲南四大水惟金沙江合江漢朝宗於 財用自蜀來者拥至國用民生兩獲其益此可見宏山 是說不行於明而行於今新灘旣鑿銅運之賽減牛而 其所導始百江源與河源皆本崑崙為天地雨戒之脈 水路以拊旗雲之局不宜獨峙一 リオま門でなっている。コイン 說始定又不獨為雲南一省之

ATE.			í	1	1	į		;
/程	;	<u> </u>	1	j			j	j
静。				-			:	
萨齊文鈔矣之六終		-	1			ĺ	İ	
<i>万</i> 司		İ	ĺ				<i>‡</i> [
						1 		!
鈔	1	1	1] 	-	
4:]
]]	,] .]
اسكر	i							
大								
44								
गर				. ,				Ì
					1	i		. İ
		<u> </u>				1		
		}				· }		}
								
同间	!)			j		
田田								
District Assessment								1
汉贯1久			. ,			[. (
同里後 學林								- {
公 土								1
4 4						:		
旧自					1	{		
東爽						1		
福康								
公 表								
于一个父		<u>.</u>			[<u> </u>		i

生鉅儒僕固年少晚進亦嘗得奉絡論於諸君子 上而展家就列所栖之衡宇若鱗次然往復讌談途彌 其尤親切者先舅氏關里孔公廣森其欽渴而未得 面者房考師之薦三侯官林公澍著先生於雨公為通 日先生以辛卯成進士是科也得人爲盛多海內鴻 一官十餘年矣所至有聲匪惟優於仕 公同郡有聯且皆有宿草之 学品に行く少え 秦與刺史 上亦優於學者

於經義精研乎史裁沈酣乎先奏而漢之高文典料是 泥印之契而不覺其心悅誠服之 中有云所貴乎文者非以載道即以經世憂哉言乎世 所設施不啻判為兩人者今僕目先生之立身行政甚 一文之獨度風格平以不振苦求其故而不得也先生窒 悉繼始求讀先生之文卽其交證其人名底盤之合若 固有就筆為文爛然不可一世而稽其所以自立與其 其於交也豈猶夫人之可以作可以無作者手叉大集 源盆不以俗土遇我乃得備觀所箸說經之交及佗鼓 方支詞翦燭翫耽不忍釋去竊歎近時多箸作才而古 が南方の生民 已甚嗚呼是可以

藝彩南之秀觀泰中人士數千百零官績之文而又得 先生之交未盡然而是役也軺車百舍季數千里攬 爱敍次蹤蹟時事誌裝語以復於先生如此乾隆 年元月上遊織女正北鄉之 生結翰墨綠為云年之契其於幸愉快為何如 門濟文鈔跋